JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）・
RISTEX（社会技術研究開発センター）委託プロジェクト

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム
社会的孤立・孤独の予防と
多様な社会的ネットワークの構築

職場の「見えないつながり」を可視化する

公開シンポジウム

組織リスクの早期検知ツール「ORINAS」の開発とその成果

2026年
1月21日(水)
14:30～17:00
（受付開始：13:45）

企業が直面している離職や従業員の一体感の喪失は、職場の対人関係の変化が大きな要因の一つです。しかし、その背景にある「職場のつながり状態」を正しく把握することは容易ではありません。

パルスサーベイやストレスチェックなどの既存ツールだけでは、従業員が本当はどう感じているのか―つまり“ホンネ”を正確に知ることが難しいという課題がありました。これに対して、私どもの研究プロジェクトで開発した ORINAS は、最新の科学的知見と膨大なデータに基づいて構築された、職場のつながりを測るスマホツールです。意識と無意識の両面から「職場のつながり状態」を可視化し、組織支援に役立てることができます。

本シンポジウムでは、企業の皆様、特に人事担当者の方に向けて、研究成果とORINASの活用方法をご紹介し、職場の課題解決に役立つ新しい視点をお届けします。

対面会場

筑波大学東京キャンパス文京校舎134教室
丸の内線茗荷谷駅下車 (徒歩約５分)

オンライン

Zoomにて配信
※後日URLをお知らせ

参加費無料

お申込はこちら

締切：1月14日(水)

最先端の「知」を、最前線に。
働く人への心理支援
開発研究センター
[T-One ラボ]

プログラム

最先端の「知」を、最前線に。
働く人への心理支援
開発研究センター
[T-One ラボ]

開会の挨拶
岡田　昌毅（筑波大学働く人への心理支援開発研究センター長）

本シンポジウムの趣旨説明
松井　豊（プロジェクト代表、筑波大学名誉教授）

第一部：本プロジェクトの研究成果（14:45~）

1．「人事担当者は職場の人間関係が見えていない」
人事担当者の面接調査から
森　理宇子（共立女子大学准教授）

2．「職場の人間関係が悪いと、エンゲージメントを下げ、離職へ」
職場内の孤立・孤独感尺度の分析から
中村　准子（筑波大学働く人への心理支援開発研究センター准教授）

3．「アンケートでもインタビューでもない、内なる孤立感をとらえる手法」
q IATを用いた孤立感の測定ツール開発
藤　桂（筑波大学准教授）

4．「言葉の色を答えると、孤独のホンネが見えてくる」
ストループ法を使って、孤独・孤立を測る
大塚　泰正（筑波大学教授）

5．「人事担当者や支援者は職場内の孤独・孤立にどうかかわるか」
原　恵子（埼玉学園大学教授）

第二部：ORINASの構成と企業での活用事例（16:15~）

1．「職場内の人間関係・孤独を測ることの大切さ」
松井　豊（プロジェクト代表、筑波大学名誉教授）

2．「ORINASの成り立ちと構成」
栗林　縫（筑波大学研究員）

3．「ORINAS導入の成果例」
①営業所ごとの特徴が見えた事例
②若手層の孤独への懸念が浮き彫りになった事例
③別ツールとの掛け合わせで、人間関係を深堀りできた事例
松井　豊（プロジェクト代表、筑波大学名誉教授）

企業様向けレポート例

主催
筑波大学
働く人への心理支援開発研究センター

お問い合わせ
職場での孤独・孤立に関する研究事務局
orinas.tsukuba@gmail.com